

## TALK OF KOBE

街のおしゃべりへ5

え・榎 忠



中 山手一丁目、日石ガソリンスタンドの山側に「ここ

はゴミ捨場ではありません。ゴミを捨てる」と清掃法  
 ・軽犯罪法で罰せられます」という大きな立看板が二つ  
 ・これ見よがしに立っている。そしてその前に、皮肉にも  
 ・ビニールづつみのゴミの山がどっさり。こういう光景は  
 ・あちこちで見うけられるが、無断で街の中にゴミを捨て  
 ・るとどうなる  
 ・か？

市の清掃局

ゴミを捨てるないうたやるノ



に問い合わせ  
 てみると、廃  
 棄物の処理及  
 び清掃に關す  
 る法律」によ  
 り、原則とし  
 て五万円以下  
 の罰金が課せ  
 られるとのこ  
 と。もっとも  
 これは心理的  
 な抑制で、実  
 際に罰金をと  
 られる例は少

ないそうだが、それにしても立看板の前にまでポイポイ  
 気安くゴミを捨てる凶太い神経にはあきれかえる。  
 とこでグリーン作戦展開中の神戸市だが神戸市全体  
 で、家庭から出る一日のゴミの量は八九一トンもある。  
 四百五十台の清掃車が毎日フルに走り回り妙賀山、脇  
 浜、苅藻島の三清掃工場と長尾山で焼却、埋立している  
 もの、年々ゴミの量は増える一方。

神戸市では四年前から、町をきれいにしようと呼びか  
 ける仲間、ゴミをキチンとかたづけることのできる仲  
 間、そんな人達を増やし、神戸を住みよい美しい町にす  
 るために毎月五日を「町をきれいにする日」と定め、ゴ  
 ミの清掃に努力しているが、そんな日があることを知っ  
 ている人は何人いるだろうか。

「欧米ではどこにもチリひとつ落ちておらず実にきれいだ」とは旅行者からよく聞く話だが、ヨーロッパの街角  
 を歩いてみると、アルプス以北のゲルマン諸国では道路  
 も公園も確かにきれいだ。しかし、イタリア、スペイン  
 あたりのラテン系国家になると、街中ゴミだらけ、とい  
 ってはいいすぎかもしれないが、まあ日本とい勝負と  
 いったところ。

「ゴミがある方が生活の臭いがする」とある日本人は言  
 ったが、南ヨーロッパを旅する日本人はさぞかし故国の  
 郷愁を感じるにせう。

ここで骨身にしみるゴミの実話を一つ。

三年程前の夏、日本の登山隊がスイスのアイガー北壁直登に成功するという快挙を成し就げたのを憶えておられる方は多いだろう。その時、私はたまたま登山隊のベースキャンプの近くにいたので、彼らを訪問する機会ももった。キャンプから数百メートルの所まで近づくと、あたりの草むらにはチリ紙が点々と捨てられている。誰の目にもそれは用を足した時のあとであるのが明らかだった。目も覚めればかりの雄大な自然のふところ、のんびりと用を足すのは実に爽快な気分であろうが、彼らはなぜそのあとで、チリ紙を集めて焼却するなり、埋めるなりの処置をしなかったのか。登山電車の駅からそう遠くないので、地元民や観光客もよく応援にかけつけた。そして散乱するチリ紙に顔をしかめた。案の定、日本隊は非難を浴び、日本の新聞にも投書がよせられた。アイガー北壁直登という輝かしい快挙も、ちょっとしたチリ紙の始末がでさなかったばかりに、思わぬ結果を生んだある日本人の知られざる実話である。

「たかがゴミぐらいで……」と、ユメユメ油断するなかれ。

それにしても街の中のなげやりなゴミの山、あれ何とかなりませんかね。

## 春

から夏にかけて、神戸港には多くの観光船が入港する。街を歩く各国の観光客の姿は神戸ならではの風物詩でもある。年老いて、腕を組み、仲よく寄り添って歩く老夫婦の姿は、はた目からみると実にいいもの。ところが、夫婦連れで神戸にやってきたある老年の紳士が妻のいないすきにそっとささやいた——「日本の男性はいいねえ。一人で遊んでまわられて……」。

なるほど、なるほど、しわくちゃの太った婆さんにガツチリスクラムを組まれてはどのようにも動きがとれま

い。黒髪を風になびかせ、ミニスカートで闊歩する東洋の



自由な街の自由なまつり？

もなさそうだよ、日本の男性諸君！

とかく、男心もフクザツよ。

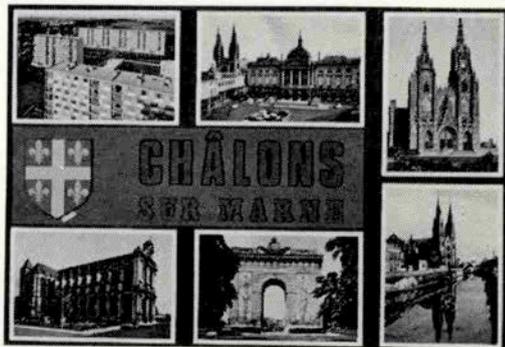
今 や平家ブームで、神戸の平家ゆかりの史跡は押せや押せやの大盛況。

このブームに便乗して、「平家物語史跡めぐり」なるバスツアーがこの三月から神戸にお目みえした。

十数カ所の市内の史跡を、ガイドの説明に耳を傾けながら見物し、生田神社では筑前琵琶を、須磨寺では一絃琴を鑑賞、さらに生田白拍子の舞も楽しめるといったバラエティに豊んだバスツアー。この際、地元の隠れた平家の史跡を改めて見なおしてみるのも一興があるので

は。期間は九月末まで。毎土曜日十二時三〇分交通センタービル前発。大人一五〇〇円、小人一三〇〇円也。

カワイコちゃんをちらりと横目でながめながら、この紳士の顔にはあせりとなかばあきらめの色が漂っていた。青春よ、もう一度、というわけでもあうまいが、街角でみかける外人夫婦の仲のよさをそううらやむこと



★フランソワ・サストウール君の

# 神戸居候 日記〈下〉

私が見聞きした日本の事柄すべてに関して（特に私がいふうとしている人の問題に関して）批評することは私には出来そうにもない。しかし私は、ある面では日本の男性達は仕事に堪え、きびしい表情をしているという印象を受けた。今からふり返って思いなおしてもそういう印象に変わりはない。

この批評は多少きついかも知れないが、絶対に必要なことだと私は思う。でも何度か日本人の人の家庭に招かれて大いに歓迎され、親切にもらったことを私はここで感謝したい。私がいるいるな所に足を踏み入れる度に日本の皆さんに心から歓迎していただいたこと——それは、ヨーロッパ人にとっては、歓迎されたり、やさしくしてもらうことは、かえって少々苦痛で心苦しくさえあるものです。私はしばしば次のようなこと故、苦しまなければいけないことがあります。というのは、言葉がうまくしゃべれないのでいつも、歓迎される時や又お別れの時など、とんまなことをいっていったということ、あとになつて気がつくのです。

それから、日本人は知り合うとかならず、私の名前や

年令や職業は何かと聞いてくるのです。これらの質問に関して私自身はちっとも気にならなかったのですが、少々驚いたことは確かです。私の年（二十一才ですが）をいうと皆半信半疑の表情で「若すぎる」とか「若いのに」と口々につぶやく。それはあたかも私自身五才位の坊やで、よその土地では分別がつかないかのごとくに扱うのでした。一人で旅行をしていると他の旅行者のことに目がとまります。彼らは何人かでグループを組み、その中には、リーダーがいて、色とりどりの小旗を手にしています。ある場所にきては立止まり、声をあげ、うまく説明ができる様懸命に頑張っている。私の知っている人達はたいいてい、私の翌日の行動又は翌々日の行動までをわざわざたずねようとします。そんな時は、たいいてい、「さあ、どうなるかな？ とにかく私には予定が無いんだし自由の身だから、明日はどうなるかわからないさ」と返事して、彼らを驚ろかせたものです。

私が考えるところによると、日本人はとても条件づけが好きで、旅行に関してはすべてが組織化され、グループのために企画され、良き案内の役目を果されているよう

だ。つまり、表面的には分からないが、すべて事が円滑に運ばれるようになっていっているのです。

現在、むづかしい問題に直面しているのですが、それはとても興味があることなのです。それは日本の女性のことです。もし日本女性が魅力的だとするならば、それは、ヨーロッパ女性とは少々違った面があるからです。はつきりいつてそれは身体的な相違です。

私は日本女性の瞳が大好きです。糸のような細い目はとても黒く、ほほえんでいて魅力的です。ヨーロッパ人にとつて不思議に思えることは、日本女性はきつと東洋（オリエント）の神秘を反映しているでしょう。その神秘とは正直にいつて、細かく気の付く点で魅かれていくことなのでしょう。感情を余り外に出さず、いわば魅力をもたらず測り知れない秘密なのでしょう。

次に、日本女性の素晴らしくて可愛い鼻のことについていうならば、その鼻は少々反抗的で、時には軽く少し上を向いていて「ハ・ナ」と二語で呼んでいるところが、とても面白い。また、官能的な口元はいつもほほえんでいるように見え、そしていつも何か親切さとやさしさを示すためなのか、ちょっぴり、開き気味なのです。女性の顔を飾る長くて黒い髪の毛は本当に素敵だった。この黒い

髪は日本女性の顔の可愛い、表情をより強く表わしているように思う。私の見た感じでは一般的に女性は、小さな体で大変簡素に服を着こなしているように見える。そして外観的には弱々しくみえるが、かえってそれが魅力となつて魅きつけているとも思える。だから女性にいろんな男性はすぐにエスコートしたいと申し出るはずです。チェンバレンの書いた「日本事情」の中で「ニッポン女性は弱々しくみえるがゆえに逆にそれが非常な魅力となつている」とのべている。

最初に強調しなかったこの「女らしさ」は、ちょっとした動き、身振り、ほほえみ、話しの口調の中に、何度も見つけたことができ。

日本の女性に因つてこれですべてお話したはずですが、私の見聞きした範囲ではまだ充分でないかも知りません。それ故、このテーマを終えるに当り Ludvie Navdeau（ルドビ・ノデュー）著「近代日本」から一文引用してみると、「日本人を、順応性に富んだ愛すべき創造者とするならば、ヨーロッパ人はかどがあり、へんこつで、気取り屋で少々攻撃的な面をもっている」といえるでしょうか。

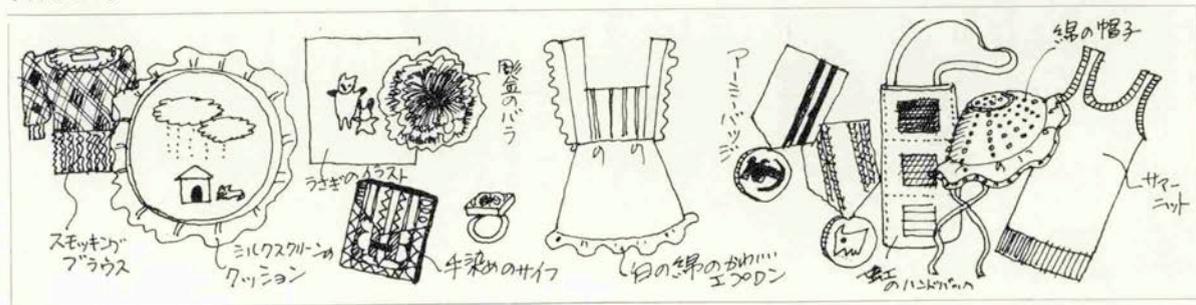


△鶴山にてフランソワ君

# Green Apple's Page

## グリーンアップルズストリート TOPICS

神戸まつり  
オリジナルバザール



●千円つかんで来て下さい。(百円でも可)

お日様がポカポカ暖ったかい5月の行事神戸まつりはウキウキ・ワイワイの楽しいカーニバル。

グリーンアップルズページも噴水公園の青年広場でグリーンアップルズストリートを開きます。

ハーマニカ吹きや、寸劇やら飛び入りのショーなんかもある様子。知らない人々が集まってここで友達になつて賭け主義じゃない自分の作品売って又知らない人がそれを買っていつて知り合いになれたらいいナーという訳。ひよつとしたらとても気のきいたプレゼントもあるかもしれません。オリジナルな一品物が、ほとんどのバザール商品で普通のお店ではちよつと買えないものばかり。京都や大阪からのゲスト出品もありますヨ。例えば、アトリエ、ギャルソンヌのサマーベスト・ニット。ボンポニユエールの綿レースの帽子。虹色のバッグ。パンピンパイのプラウス。白いフリルのエプロン、皮アイフ・紙粘土のリング。"アル"の一つ目小僧の洋服・きりん堂のアーミーバッグ。古賀佐和子さんと安田信子さんの彫金の大きなバラの花のブローチやリング。"ドロー"のシルクスクリーン染めのポエムクッション。浜田清君の"あしたの天気になあれ"のとてもかわいいイラスト。沢村佐知子さんの皮染めのサイフと指輪。何にでも使えるプレートはドウリウムステンドグラス。レディ・バードの皮の洋服やバッグやいろいろ。それに、ミニコミ誌月光仮面・ザマガジン・etc。岡田淳君のイラスト本。個人的ピラミッドへの挑戦"アングラポスター"など。いつもグリーンアップルズページに協力してくれている人々のストリート。あなたもお気に入りのオリジナル商品をさがして、グリーンアップルズの仲間入りして下さい。

●バザール

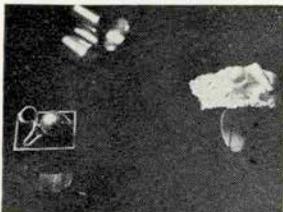
5月21日(土) PM 12:00 ~ PM 9:00

22日(日) PM 10:00 ~ PM 9:00

場所/フラワーロード 噴水広場の一角

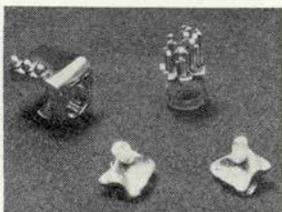
# DREAMER

彫金のアクセサリー



安田信子さん

〈神戸女学院卒 23歳〉



古賀佐和子さん

〈甲南大学卒 22歳〉

いつも自分なりのファッションで現われるこの2人。ショッピングも遊びに行くのもたえずいっしょで誰かに言わせるとこの2人を別々に紹介することは考えられないとのこと。芦屋のジュリー教室で彫金を習っている。安田さんは人間味のある雰囲気、時にはとんでも大胆で大味な作品をつくる。スタイリッシュな古賀さんはクールなイメージ。機械を思わせる。そして繊細。スプーンの1点もの。大きなプレストレット。壁飾りなど新しいアイデアを展開していきつつあります。連絡先 TEL 441・3078 古賀方

## ●オームの「アル」が主人です

雨が降ったある日、石の坂道にピンク色の桜の花びらがひかっていた。北野町・サッスンアパートの白い洋館の扉をあけると赤い長靴風のブーツにチェックのストッキングワンピースを脚立にあがって飾ってゐる男性一人。今スバゲッティゆでてます。いっしょに食べませんか。と奥で男性の声。主人ですと紹介されたのは「アル」というオウム。一つ目小僧という東京のブランドのローリングトエンティ風なブラウスやワンピースがアンティクナトランクのなかにいっぱい。

5月の初旬にオープンする

「アル」は京都のジャズ喫茶カナルコを営んでいた阿部直樹さんが大西つとむさんと共にはじめるサロン風なトータルファッションの店。白い洋館の応接間でお茶をのみながらお天気の会話から始まるお喋りを楽しみましょう。

北野町4丁目サッスンアパート1F (ホテル金の鍵山側)

## ●街で見かけたロックの新聞

今ではめずらしい新聞型のミニコミ誌「ザ・マガジン」は、「ロッククライミング序説」を動かす人々をたずねてみるの「だ」が第一号の特集。三上寛のインタビューもある。2号目は、頭脳警察の特集。森英次さんのイラストレーションによる

ロックや特大ポスター付録つき。一〇〇円で定期購読は二二〇〇円。ロックを中心にした新しい情報機関となる様子。

神戸での販売は神戸ブックス、イカロス書房・日東館・神戸ヤマハ・NG・ソウルイン・ボツサ。ガジン編集室 吹田市南高浜町19の6 キヌヤビル3F TEL (06) 381・1258

## ●催しもの案内

### ■ジャズワークショップ

渡辺貞夫セクステット

川崎良クインテット

同志社大学モダンジャズグループ

5月2日(火) PM6:00  
国際会館 チケット S12  
00円 A1000円 B8  
00円 企画/MAW TE  
L411・6077

■MAD IN JAPAN  
フラワートレバリングバンド  
(内田裕也と麻生レミ)

5月28日(日)

AM11:00~PM5:00  
前売500円 当日600円  
芦屋川上流(阪急芦屋川北へ8分)

企画/ASHIYA・BOW  
連絡先/0797・22・3835

## ■呪術音楽劇邪宗門

5月29日(月) 30日(火)

PM6:30

前売600円 当日800円

大阪サンケイホール  
企画/天井棧敷

出演/新高恵子・蘭妖子他  
連絡先/06・341・3114  
林静一面のポスタープレゼント  
5名様編集室グリーンアップルズ  
ベージュ係まで。締切5月末日

# ぴっと・いん



★マキシで十四周年のS。

四月三日四日、十四周年を迎えたクラブS（福島里子さん）が、恒例の記念パーティを開き、十月に改築される新しいS&Fビルの完成をめざして、浜側の永見ビル二階に移転オープンした。十四年間、ガラス張りのクラブとして生田新道で親しまれたクラブだけに、さよならパーティは全員、マキシドレスで大サービス。

新しいビルは一階はウインドー、二・三階がクラブ地下がパブで、根津設計事

務所のデザインだ。

★ラーメンの竜潭ご存知？

元町駅南筋の「竜潭そば」が都市計画のため移転。三



ラーメンとおばちゃんがいい店

月二十一日生田区北長狭通

三丁目九サンセットビル一

F(321)一八一三に新しく開

店。ラーメンファンを喜ば

せている。ラーメン・ワン

タン(一五〇円)で、ラン

チタイムにはご飯付ラーメ

ン二〇〇円で、夜は、揚げ

ワンタンや家庭料理で安く

一パイと、きこしめす人も

多い。気さくなおばちゃん

(杉本宇野子)とハンサムな

息子さんに女の子という気

軽な店だ。

AM11:30~2:00PM5:00

★十五周年と銀婚式と

JBAの神戸支部長柳ヶ

瀬康治さんが、山本通のお

店YANAGASEの十五

周年と、奥さんの美智子さ

んと銀婚式も迎えること

になり、四月七日午後四時

三〇分から記念パーティを

開いた。元永定正や小松益

喜の絵がある落ちついた雰

囲気この店もこの日は、

常連客やJBA会員が集

りにぎやかな宵いだった。

★いい感じガスライト

外人客が多くて、ピアノ

の廻りで飲ませてくれる

「ガスライト」(元山本通)

が去年の十一月から加納町

三丁目一番地の元オールド

ブラウン後へ移転したのを

知ってる？

この新しいガスライトは

朝四時半迄やってるので、

最近、若い人や外人の人氣

集めている。カントリーウ

エスターンスタイルの古め

かしい雰囲気、元の店よ

り倍は広がっていい感じ。

火・水・金はジムの弾き

語り、毎晩はベースとピア

ノが入ってる。午前九時か

ら午前四時三〇分迄日曜

み午後6~12時(第三日曜

休み)ヒールはお茶と軽食で

ピラフやスープも案外いけ

る。ジュース・コーラ(二

〇〇円)ビール(二〇〇円)

電話(二四一)七七二四。

## ●神戸のうまいも

んとドリンキング

イタリア料理

ベルゲン

中山手Y.M.C.A. 一〇〇m東二階

TEL(三九)五八三〇

AM12:30~PM12:00

本場仕込みのイタリア

料理店「ベルゲン」が、

中山手通Y.M.C.A. 一〇〇

m東浜側二階に出来た。

安田義男さん(三〇〇)

育子さん(二七)の若夫



婦が、イタリアへ料理の

武者修業にでて二年。

その腕とサービスをふ

るってくだる食通には嬉

しい店だ。

ワイン飲みながらロマ

ーナ(子牛と生ハムの積

み重ね六〇〇円)やカネ

ロニ、ラサニエ(四五〇)

をたべてもいいし、フル

コースも一五〇〇円と安

い。一人前づく手打ちの

ピザをやいてくれるが味

はバツグン(四〇〇〇円)

後でのじき茶(二〇〇円)

を味わうと香り高い。

ビヤガーデン 5月1日オープン



〈北欧ヴァイキング料理〉

2000円〈税込み〉

飲みほうだい (サントリー純生ビール) + 食べほうだい  
クラウン・コーラ

一品料理、日本酒も準備いたしております

同窓会など各種パーティにご利用頂けるお部屋もございます。



なごやかなムード

すばらしい眺望!

スカイサントリー

三宮交通センタービル9F TEL.(391)3705~6



アサヒビール特約代理店

●お酒の殿堂

酒類調味食品問屋

乾 神戸酒類販売株式会社

本店・生田区中山手通1丁目76

TEL(078)321-0201(代表)

支店・西宮・垂水・兵庫

# 佐本歯科

小児歯科・一般歯科

診察時間（予約制）

AM 9:00—PM 1:00（受付12:00まで）

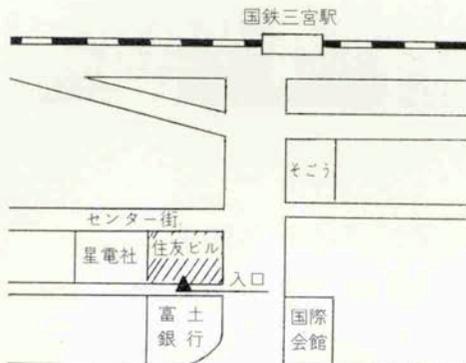
PM 2:00—PM 6:00（受付5:00まで）

（土曜・木曜は午前中）

そごう前センター街東角・さんちか入口

住友銀行三宮ビル6階

TEL(078)331-6302~3



〒650 生田区加納町 5丁目39

こんにちは赤ちゃん



芦屋市親王塚町/町永貴広君

完全看護★冷暖房完備★病院前駐車可能

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大榭町1番18号

国道芦屋川電停東50米(明治生命南)

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表



## ポケットジャーナル



### ★市民コンサートで

普段着の芸術を  
だれでもが参加できるコ  
ンサートが、今月から毎月  
定期的に開かれる。

このコンサート、第一回  
は五月二十五日、以後は毎  
月第四火曜に海員会館の市  
民小ホールで定例開催され  
その名は、へあなたも参加す  
る市民コンサート。更に  
春秋二回程度の野外発表会  
も企画されているが、出場  
者はアマチュアに限られ出  
演には無報酬、もちろん入  
場は無料。演奏のジャンル  
はジャズ、フォーク、クラ  
シックオーケストラ、コー  
ラス、ブラスバンド、邦楽  
合奏などで、毎月末に出演  
申し込みを締め切る。

主催は、神戸市。大都市  
としては珍しいこのプラン  
おたがいの手で盛り上げて  
いきたいもの。

### ★劇団神戸第五回公演

むかし海ミドリムシ

昭和45年に発足以来、劇  
団という枠にとらわれず地

元に根ざしたオリジナル作  
品を手がけている劇団「神  
戸」が、これも地元にあつ  
てユニークな詩活動をつづ  
ける、安水稔和氏の「むか  
し海ミドリムシ」をとりあ  
げ5月21日、明石市民会  
館、23日、神戸海員会館市  
民小ホール、26日、芦屋ル  
ナ・ホールで公演する。



むかし海ミドリムシ第1回打ち合せ

原作は安水氏が「海の蝶  
」、「岩の花」、「波の上」の  
三部作を基に、舞台のため  
に書き改めたもので、人間  
の存在の原点を鋭く衝いた  
作品。機智とユーモアを交  
え、明快で平易な語り口は  
難解さや独善を排した清新

なもの。上演に際しては、  
中西勝氏はじめ各文化界の  
協力の下、トータルシタ  
ーとしての可能性を探ると  
いう新しい意義をも持つ。

演出・津山啓二、美術・  
中西勝、板矢真紀、音楽・  
鈴木洗、照明・松永宏、効  
果・飛田博行、衣装・藤本  
ハルミ、振付・花柳芳恵一

子、上月倫子、村上タケシ  
琵琶・柴田旭堂、舞台監督  
井崎 雄、制作・浜田義則、  
李敬司、岡田美代、キャス  
ト・劇団「兵芸」、「ふおる  
む」、「漁火」、「くさび」、  
神戸プロムジカアンサンブ  
ル、夏目俊二、森秀人、小  
倉啓子、花柳芳恵一子、藤  
間緑寿郎、上月倫子、後援  
・県教委、明石、神戸芦屋  
の各市教委、明石市民会館  
友の会、劇団神戸芦屋友の  
会、協賛・大西パーキング  
★神戸シーメンズクラブ  
オープン

神戸港の表玄関、第四突  
堤ポイントターミナルビル三  
階に、このほど神戸港に立  
ち寄る外国人船員を対象に  
した「神戸シーメンズクラ  
ブ」がオープンした。外国  
ブルな応援ソファ、カラ  
ットなどが完備され、郵便  
物の発送サービスや観光案  
内もある外国船員の憩いの  
場。コウペには年間一万隻  
近い外国船が入出港する

### 誕生日 ありがとう 運動



#### 七周年ご支援感謝!

本運動は、五月八日で七周年を  
迎えます。昭和四十年五月八日に  
神戸市長田区室内小学校の特殊学  
級で発足した運動です。

運動の小さな灯が、またたく間  
に広がり、全国各地や遠く海外に  
まで愛の輪が広がってきました。  
これも長年にわたってご支援い  
ただく地元の神戸っ子をはじめ、  
全国のみなさんのおかげです。厚く  
お礼を申しあげます。

本運動は、みなさんご承知のよ  
うに、精神薄弱問題の啓発運動で  
す。七年間の歩みをふりかえりそ  
の啓発活動は精いついたばかりで  
前途遠慮です。この七年間いろいろ  
なる啓発活動をしてきましたが現  
在は、中学・高校の保健体育の教  
科書に書かれている「精神薄弱」  
の項の改訂の働きかけをしています。  
す。

みなさん今後毎年一度めぐつ  
てくる誕生日には、この運動のこ  
とを思いだして、精神薄弱問題に  
ついて考えてください。

なお、運動発足の当初より、毎  
月かかさず紙面をさいてご協力い  
ただいた「神戸っ子編集室」に、  
紙上をかり七周年を機会に、みな  
さんと共に感謝いたします。

★誕生日ありがとう運動本部  
神戸市箕谷区御幸通八の九の一  
神戸国際会館一階の郵便局の前  
電話二五一八一六一内線二五八



現代にマッチする合理的な和裁方法

が、一般外国船員の休憩、娯楽施設はほとんどない。このため、神戸市が、各国シーメンの交流の場として、同ターミナルに「パブリック・シーメンズクラブ」を開き、あきスペースの利用と国際親善の一石二鳥をねらったもので、開設時間は午前十時―午後六時。日曜日は休み。

★きものに弱い現代っ子に合理的な「和裁教室」  
今まで国際会館でもの着付け教室を開いていた高井敏子さんが、この程ボーリング場・神戸スタレー



ポートターミナルにオープンしたシーメンズクラブ

★須磨浦に源平史跡をみる  
平家物語須磨回遊券  
平家ゆかりの一の谷古戦場と須磨寺をたずねる「平家物語」須磨割引回遊券が山陽電車から発売されている。コースは須磨浦公園駅―山上回遊―須磨寺というもので、山上へはロープウェイとカーレータで展望閣の源平史跡展を、観光リフ

ン4階(321・1954)において「現代和裁教室」を開かれきものブームにのって好評ノ月・水の両日昼の部(PM1:00~PM3:30)夜の部(P.M6:00P.M8:00)が行なわれ夜の部は特に19歳/25歳位までの若い方が圧倒的とか。「従来のきものもち味を生かしながら、現代の感覚に合わせ合理的な和裁方法で月本国内といわず外国の方にもぜひ気軽に着物を着ていただきたいと願っています」と先生は語った。その上、体型に応じての仕立ても教えてもらえる。初心者には、浴衣から長襦袢・肌襦袢の段階を踏んで現代和裁に入っていく。

五月にはその合理的な二・三種の着物を持参してヨーロッパへきもの旅をする。きものに倣劫な女性はお稽古なさっては? 授業期間6カ月申込金一〇〇〇円、授業料三〇〇〇円です。

トで山上遊苑の源平合戦野外パノラマ展を見たあと、ドレミファ噴水パレスというコース。そして須磨寺では特別宝物展を拝観して、平敦盛絵馬がプレゼントされる。

この一の谷パック、料金は、大人九百円、小人五百七十円で、これに乗車駅からの運賃が加算され、十一月十二日まで、山陽交通社本社(611 2001)他、五



プレゼントの絵馬と回遊券

業所、十二駅で発売。  
★愛猫「おふく」ちゃんのお追憶集出版される  
三月二日、中学校教諭福田忠次さん(64)によって愛猫の追憶集が出版された。英訳も含む三二頁ほどの愛情こもった可愛らしい本。猫御殿にとり残され、おふくちゃんに子・孫の如く可愛がられたハチ、しろ、サム、チェリーのおふくを偲ぶ追憶の文や、彼女の様々な姿をとらえた「若き日のおふく」「ある日のおふく」などの十数枚の写真を掲載

★兵庫県立近代美術館  
青山熊治 没後四十年記念  
ウイーン幻想絵画展 4/22/5/14  
★そころ六福画廊  
江田誠輝油絵展 4/28/5/5  
中尾淳日本画展 5/5/5/5  
山本大慈日本画展 5/12/5/5  
坂本益夫油絵個人展 5/17/5/3  
山平義正日本画展 5/26/5/5  
★新光ギャラリー  
朝鮮金石・茶碗展 4/30/5/28  
(PM1:00~PM5:00)  
★KCCギャラリー  
第5回兵庫県写真家協会公募展  
みどり会書展 5/5/5/5  
浜川卓己個展 5/27/5/6  
★安田画廊  
地上社展 5/9/5/5  
松美会展 5/9/5/5  
グループ協洋画展 5/23/5/5  
ろどの会展 5/23/5/5  
★白鶴美術館  
中国古陶器展 5/4/5/5  
藤岡良一講演会 5/7/5/5  
★南蛮美術館  
紅毛美術展 4/29/5/25  
★さんちか広場ギャラリー  
神戸姉妹港展 5/18/5/23  
モノメント・エスキズ展 5/25/5/30  
★三葉さんちかホームギャラリー  
智念寺文庫展 5/5/5/9  
書作三人展 5/3/5/5  
第八回船美展 5/18/5/23  
★大丸百貨店五階美術画廊  
京の中之宮貝市 第一週  
現代の有名大家・日本画・洋画展 第二週  
北村西望プロンズと書・沢田政広 第三週  
片野元彦・細瀬展 第四週  
★元町画廊  
第2回元町画廊 5/22/5/28

美術ガイド





若き日の「おふく」

昭和三十八年、迷猫として福田家を訪れ、猫御殿において「おばばさま」と慕われ皆に可愛がられたおふくちゃん。去年十二月二日この世を去り、翌三日、二年前に亡くなったビビの眠る隣に埋葬された。おふくは福田さんが発行する「ねこ通信」で毎回巻頭言を書き、愛好家達にはおなじみだった。そして、福田さんは彼女の冥福を祈って自宅裏庭に「ねこ」塚をたてた。そのまわりには春の花が咲いていることだろう。

★あなたの家紋は？  
特殊アルミ合金をはじめ込んだ、手書き家紋が四月から本格的に売り出された。考案者は、竹内可充氏(2513048アド・センター)で、去年の家紋ブームの頃に



に着目、商品化に非常にと苦労したとのこと。家紋のみならず社章もあり、お家や、会社のシンボルマークにご利用下さいとのこと。

★岡山のガイドブック「吉備路」発行される  
新幹線で、神戸から四十分。岡山がにわかにくろーズアップされている。保育社カラーブックス「吉備路」岡山・倉敷と

言葉が影をひそめてきた。兵庫県も神戸市も文化行政に積極的である。兵庫県は近代美術館で成果をあげ、県の芸術祭行事も巾を広げている。県庁舎内のホールも小劇場として解放して好評である。

### 花時計



#### 古典芸能の殿堂 神戸能楽殿誕生

神戸には文化施設が少ないということは戦後から二十数年間にわたってひとつのあきらめに似た感じで話されてきた。

しかし、宮崎市長となり坂井知事となってその

市側も在来の海員会館ホールを小劇場として改装。大倉山に大ホールと中ホールのある中央公会堂を建設中である。特に、宮崎市長は大倉山一帯を文化ゾーンとし

その周辺一帯は、その好ガイド著者宮崎修二朗氏は神戸新聞社に勤務する一方、これまで文学、民俗学、旅行など二十余冊を著わしているが、今回ののはしがきで、「初めて突入する余暇時代に、どのような姿勢を整えたいだろうか。終始そんなことを考えながら吉備路の旅をつづけたつもりである。」と述べられるように、鋭い目で風俗、文学を歴史をまじえてみつめている。

(定価・二八〇円)



表紙は倉敷考古館

て計画しているという。その中心地点は神戸っ子には馴染深い湊川神社である。その境内に日本の古典芸能を代表する能楽の場として能楽殿が完成落成する。

勿論、兵庫県、神戸市、地元財界が協力し、能楽関係者が力をあわせて完成を見たということだ。文化地帯の中央に伝統芸能の殿堂があるというのは頼もしい限りである。 (Y)

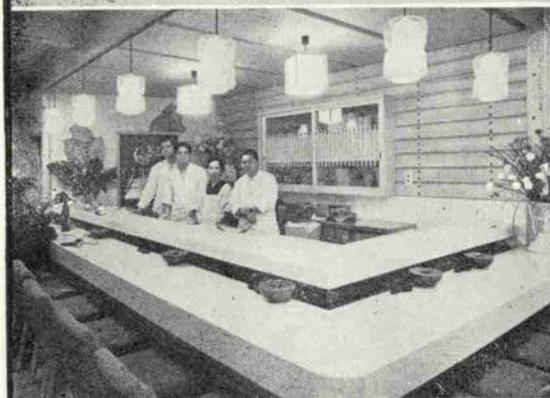
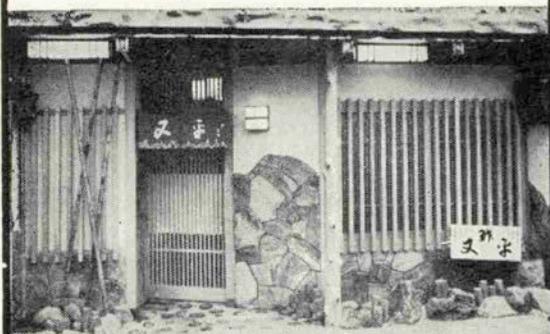
## KOBE POST

★具体美術協会は、吉原治良氏(代表)の指導のもとに、新しい美術の追求を、昭和三十年発足してから十七年間続けてきましたが、吉原治良氏の急逝という試練の場に立ち、このほど全員一致で三月三十一日をもって解散いたしました。具体美術の精神的遺産を受けついでそれぞれの場で制作に励みますのでよろしくと、具体美術協会(大阪市北区宗是町一大ビル西別館)よりご挨拶がありました。グタイミニピナコテカもG.U.T.A I 55・72十七年の記録を四月十日〜20日まで展覧し、終了と同時に閉鎖されます。新しい美術の旗手としての永いグループ活動よりは惜しみでもありあることです。

★本誌の表紙紙でおなじみの小磯良平画伯から、仕事場改造のため一時マシオンへ転居すると通知がありました。転居先は、東灘区住吉町丸山御影グラウンド・ハイッ3-141-1号室(821六〇九五)★日本経済新聞社神戸支局が、四月五日生田区に新築移転しました。

移転新住所は、神戸市生田区中山手通6-6番三七一―三五八一と三と、支局長の高村信夫さんからご通知がありました。  
★三愛の企画室の高木昌太さんは四月東京三愛に転勤されました。  
★読売新聞神戸支局長の井形彰さんは大阪本社へ転勤され、新しく常務神戸支局長が着任されました。  
★朝日新聞神戸支局長の酒井記者は三月鳥取支局へ転勤されました。

ゆったりと落ち着いたスペースで  
新しい“味”をご賞味ください。



鮭の又平

神戸三宮生田ノ社ノ西  
電話・三の宮 (331) 0935

元祖 焼鮭

おいしさが  
口いっぱい  
ひろがる……  
本場の味



ばた  
なち

- 三宮センター街柳筋店  
TEL 321-3446・331-0572
- 新開地店  
TEL 576-1191
- 平野店（平野市場内）  
TEL 361-0821
- 三宮センター街サンプラザビルB<sub>1</sub>  
TEL 391-3793

オリジナル **L** サイズ

草履新発売

創業明治二十八年

# 履物の山下

古い老舗に新しいセンス

确实正礼 完全冷暖房

静かに品選びの出来る店

神戸三宮センター街 TEL(391)0256



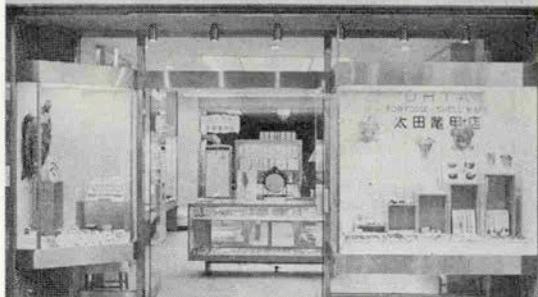
ハイセンスの紳士服で最高のおしゃれを!

## 三恵洋服店

元町4丁目 TEL(341)7290

### GREEN KOBE SHOPPING

## 太田鼈甲店



べっ甲美術品とアクセサリーの専門店

## 太田鼈甲店

元町1丁目 TEL(331)6195



# 五月人形

.....カメラで  
すこやかにたくましく



三宮方面でのお買物は.....  
さんちか店 フアミリータウン  
三宮店 三宮センター街山側  
元町方面でのお買物は:  
元町店 元町通3丁目山側  
パンフ店 元町通1丁目不二家前  
330 00990  
330 07668

おもちゃの  
**カメヤ**

やっばりうまい  
むさしのとんかつ

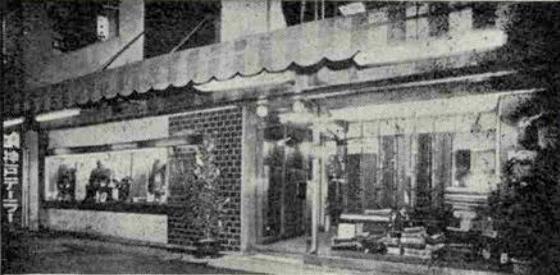
たんかつ

アベニ宮  
ムサシ

でんわ・  
321 321 331  
— 〇六三四  
— 〇六三五

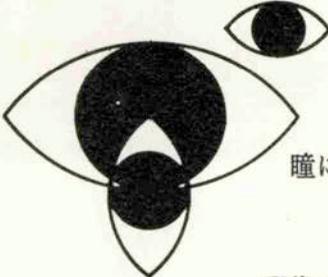
高級紳士服専門店

神戸テラー



さんちかメンズタウン TEL(391)0388  
生田区北長狭通2(阪急西口) TEL(331)2817・3173

GREEN KOBE SHOPPING



瞳に美しさを保つ  
スポーツに  
美容に  
現代の科学が生んだ  
コンタクトレンズ

日本コンタクトレンズ協会会員  
国際コンタクトレンズ研究所

神戸市葺合区御幸通八丁目九ノ一 (三宮駅前)  
神戸国際会館内 TEL(251)8161・(231)2570

おすし  
てんぷら



栄 彌



本店 大丸前・三宮神社東  
TEL(331)5673  
(毎週水曜日休み)

支店 さんちか味ののれん街  
TEL(391)5233  
(第3水曜日休み)

営業時間  
A.M.11.30~P.M.9.00

電気器具の粋をあつめました



元町家電(株)

神戸市生田区元町通6丁目25  
TEL (078)351-0081



バラの季節にさえる

パールをお届けします

北村真珠店

元町通2丁目60 TEL. 331-0072

フラメンコの店  
ブルーリボン

加納町3丁目交差点西1丁上ル  
TEL 231-6378



情熱のフラメンコ!

神戸の山手、加納町にフラメンコの店、ブルーリボンがある。ドアをあけると情熱的なカスタネットをかき鳴らす音が耳にはいり、マスターのギター伴奏で情熱のフラメンコ舞踊が見られます。それは月曜日と土曜日の夜、7:30、9:00、10:00の週6回。

のみ物は、スペインのセリー酒(ワイン)、軽食としてトルテージャ(オムレツ)など、いろいろあります。

6月1日で15周年をむかえるこの店は、安心して気軽に行ける楽しいところ。

セリー酒 ¥ 300、トルテージャ ¥ 350

営業時間 PM6:00-PM12:00 (第三日曜は休み)



DRINKING

Snack & Drink

ビギン

北長狭通3丁目9 サンセットビル地下  
TEL 321-0953



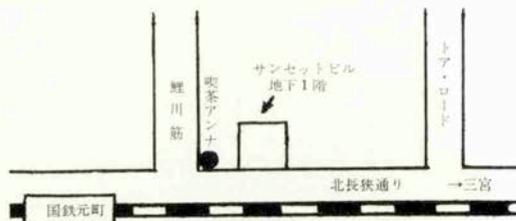
国鉄元町駅を北側へ降りて少し東、サンセットビルの地下一階にちいちゃなお店が4つ。中でもいちばんカワイイ、まっしろなドアにビギンと書いてあります。そのドアをあけると、この3月にオープンしたばかりのあなたのプライベートスナック、ビギンなのです。

どちらかといえばヤリクリの苦しい、学生のキミや、若いサラリーマンのボクが気楽にはいて、安心して楽しい時をすごしてもらおうとはじめられたのです。

ですから、カウンターのむこうもこちらも若さでいっぱい。今夜は、まずビギンからはじめてみたら……。

営業時間 PM6:00-PM12:00 ビール ¥ 250

(日曜、祭日は休み)



# キリシタンの墓

小山 牧子

え・石阪 春生

## 燃える海 断章 4

あらずし、二年前短期大学を卒業した佳は、母であり、歌人である蘭子との生活に息づまりを感じ、米国系海運会社のエイジェントに勤めに出ることにした。ある日佳は顯成寺の墓地の暗がりであつた村重船長と名のる老人から、自分の父村林裕作の過去を知る。その父が久しぶりに航海を終えて神戸に帰ってくるが、蘭子の冷たい態度に佳の心は複雑だった。そんなある日、佳は蘭子の短歌が新聞に載っているのを見つけるが、まさしくそれは裕作の初恋の女性、故由佳子の短歌の盗作であつた。思いあまつた佳は歌誌「せせらぎ」主幹に密訴の手紙を書く。そして主幹の怒りにふれた蘭子は完全に短歌界から扶救されることになつた。その後の蘭子は正気を失つたように館の一室にとじこもるようになり、ある日突然姿を消し、塩屋沖でその死体が見つかる。苦悩する佳。父との対語。

「ケイのママは、そんな風に傷つくことを恐れ、自分の穴に逃げ込んでゐる男のずるさに気づかず、私が見ただ由佳子を忘れかねているものと、何年もおもひ込んで過ごしていた。そして、常に一定の距離を保って、妻を自分の世界に踏み込ませようとしない私に、細やかな愛情を傾けてくれたのだよ」

追憶を語る裕作の顔に、痛恨の色が刻まれている。

「ママは忍耐強く、そして限りなく優しかった。閉じてゐる私の心が献身によつて開かれ、いつか自分の力で私の心から由佳子の残像を追い払ってしまえるものと、ママはおもつていたのであらう。ママは、道端で拾われた雑種の飼犬でもそれほどではあるまいとおもえるほど、卑屈な、おどおどとした目で私の顔色をうかがいながら、



何年もこの館で暮らしていた。だけど、あの頃のママは、決して暗い顔はしていなかつた。希望があつたのだもの。独占欲の強い女おんなだったから、私の心を自分ひとりのものに縛りつけておきたいと望むのも無理はないとおもうよ。だけど、私はママがそう望んだ分だけ、ママから遠ざかって生きようとして、必死に死んだ由佳子の残像を抱きしめていたのだ。航海を終えた私が最初に行く所は決まって亡き由佳子の老父が住んでゐる古寺の一室だった」

「わたしにはわからない。そんなママがどうして……」  
「最初から燃えることのあまりなかつた私達だけだけれど、子宝には恵まれた。それがケイ、お前だよ。生命の芽を胎内に宿し、月みちるまでのママはしあわせそうだ

った。二人の間に子供ができれば、それを切れぬ絆にして、私の胸から由佳子を追い出すことができる。ママはそう信じていたのだろう。しかし私はママのいじらしい望みを踏みにじり、生まれたお前に由佳子の名にある一字をとって、佳と名ずけた。理由は、そう……私の決意というか、現実の男と女の愛や葛藤から遠ざかり、抽象の世界に生きぬこうとする決意を、ケイ、私は、生まれただばかりのお前という素材に刻んだのだ」

「可哀そうなママ……」

暮色に包まれてゆく戸外の影たちのすべてが部屋をかげらせ、佳の胸に倒れかかってくる。そして、影は佳の内部で言いようのない悲哀の情と溶けあつた。

「ママは悲しかっただろうけれど、顔に出すということにはなかつた……」

裕作は続ける。

「しかし、私に対する執着からは、つきものが落ちたように解放されたのだろう。ケイが生まれた翌年、ママは誤ちを犯した。その頃、再び短歌の昔の仲間と交流しはじめていたママは、私の留守中に会の若い男と愛しあつてしまったのだ。勿論、航海から帰った私は優しくママを許した。そして、そんなふうにもママを許せたことで、私は結婚してから守り続けた自分の生活態度を肯定した。特殊な家庭生活を強いられる船乗りという立場から、人を愛し過ぎて傷つくことを避けるための自己防衛的な本能——。そのエゴイズムが、ママをどれほど傷つけたことか。ママは一途な性格の女だった。倫理性の強さにおいても並の女以上のものを持っていた。だから、自分の生涯をゆだねようと短歌の筆を折ってまで結婚した私以外のどの男も本当には愛せないことを、自分でよくわかつていたのだよ。だから、最初の誤ちは、絶望しながらも、なおかつ私に一縷の望みをつなぐ女心のあがきだったのだと私はおもう。もしあのとき、私がママに怒りをたたきつけ、その頬を打ちすえる激しい行為にでていたら、それ以後のママの人生は変っていただろう。私の

愛を由佳子から自分にむかわせることを断念したママはがむしゃらに歌を作りはじめた。そして、孤独な女が体当たり的に書く歌は、次第に世の評価を得るようになっていった」

裕作の顔は、いつか暗い影に包まれていた。闇の中で、彫りの深い顔が更に凸凹をきわ立たせている。鼻梁は枯れた山のように、そのかげにある頬は陥没したようにそびえている。五十年近くを生きて、由佳子と蘭子という二人の女を共にしあわせにすることができなかった孤独な男の顔——。己れを守りすぎて受けた傷と、人を愛し過ぎて裏切られ、復讐の刃をといで受けた傷とでは、前者から受ける傷の方がはるかに陰微で心に残ることを、裕作は知つたのだろうか。己れを醜悪なエゴイストとして責める声は、生ある限り裕作を撃ちすえるだろう。

「でもパパ、なぜ？ それ以後のママの乱行はどうしてなの？」

「女流歌人として世にみとめられてからのママの恋愛沙汰のすべては、ママの演技に過ぎなかつたとパパは見ているよ。歌の世界にもあるのだろうか。本当に他人を感じさせることができる愛の歌を詠むためには、歌よみ自体が恋愛をして、女流歌人ならば奔放に男に溺れなければならぬといった芸術家たちの愚劣な経験主義に毒されて、ママは男遍歴をはじめたのだろうよ。だけど、パパが知っているママは、決してそれほど淫らな女ではない。私にむかつてあふれ出る愛を拒まれたママは、歌の世界で虚名をあげようとふるい立った。そのための演技であつたし、自己催眠でもあつたのだろう……」

「可哀そうなママ、さぞかし淋しかったでしょう」  
いつか佳は、裕作の足もとに身をくずし、両方の腕で膝頭をかかえ込み、頭を垂れて父の話に聞き入っていた。

——悪いのはパパだったのだ。パパがママを冷たく突き放していたから、ママは短歌というへんなものに気狂いじみた打込み方をしてしまったんだ。だけど、どうして

それほどまでに心が通い合わなかったのだろう。

父もいつているように、それには裕作が船乗りであるという特殊な生活環境が大きな原因になっているだろう。一つ家で四、六時中、顔を突き合わせて暮らしている並の夫婦ならば、現実の塵芥にまみれあい、日常生活の喜びや悲しみ、怒りを相手にたたきつけあいながら、次第にお互いを家の中に昔から置かれていた古い家具か、よどんだ空気のような存在に代えてゆく。愛だとか献身だとかといった言葉を聞くものなら歯の浮くようなむずがゆさを感じてしまう一般の家庭にくらべ、夫が留守がちの家庭では、夫婦の間が新鮮なままで続く。ということとは、愛とか、それと裏返し位置にある不信、疑惑、自己愛などが、いつまでも生き残ってその存在を主張する。悪く表現するならば青いまま、成熟しないということであろうか。そして蘭子は、船乗りを夫にもついでびつな家庭の形と、それゆえに極端な自己愛の殻で身を守る夫の犠牲になったのではなかったか。

「可哀そうなママ……裏切られたときのことが恐ろし

くて、ママを素直な気持ちで愛せなかったなんて、そんな子供じみた理屈、わたしには納得できないわ。よほど二人の性格が合わなかったか、パパがひねくれていたかどちらかだとおもうわ」

「だれだってそうおもうだろう。航海中に奥さんを若い自堕落な男に奪われた由佳子の父親の苦悩を目のあたりに見たのでなければ、そして私があの人をどれほど敬慕していたかを知らないならば……。私は戦艦に乗っている間中、いざというときは必ずあの人、由佳子の父のための人柱に立とうと決意していたくらいだったのだから」

「パパもやはり、どうにもならぬことはかり考える男だったのね……」

蘭子の死を知った瞬間からこの日まで一滴の涙もこぼれることがなかった佳の頬を、涙が止めどなく流れ落ちた。蘭子の死のあと、佳は凍る心で母をなじり憎んでいた。なぜ歌の道を閉ざされただけで、母であり妻である女が死んでしまえるのかと……。が、あの道を閉ざされた蘭子には帰るべき暖かい場所などなかったのだ。



「私はケイになんといつて許しを乞えばいいのか……。  
ケイは、いつも家庭をかえりみぬママを憎んでいた。だ  
けど、ケイの家によんでいた暗さは、私に原因してい  
たのだよ……」

「信じられないわ。なぜそれならそうと……。でもパパ、  
本当にわたしという娘まで与えられた二十五年の結婚生  
活の間、一度もママをいとおしいとおもったことはない  
の？ ずっと由佳子さんのことばかりおもっていたの  
？」

「ママにはいつもすまないとばかりおもっていたよ。だ  
から、私はママの現実的な欲求、たとえば着物が欲しい  
とか、旅行にゆきたいとかといった願いは、全部、寛容  
な心でかなえてやった。歌集を自費出版したいといった  
ときも大いに励まして費用をだしてやった。そういつた  
私の経済面での寛容さが、ママの奔放な生き方に拍車を  
かけたんだらうね。そんな冷たい間柄の私達だったんだ  
けど、最近になって、私はふとママに今までとは違った  
感情を持ちはじめた自分に気がついたんだよ。ケイはど  
んな見方をしていたか知らないけれど、すでに明かるみ  
に出てしまったママの盗作事件ね、私と一緒にになってか  
らもずっと私の胸の内だけにしか住んでいない由佳子と  
張りあって過ごしてきたママが、由佳子の歌を盗むなん  
てことはよくよくのことなんだ。私は、なぜかそんなマ  
マに弱い弱い女の性を見てしまった気がしたんだよ。放  
つておけば一人でキリキリ舞いをして分解してしまひそ  
うな頼りない女にママが見えた。そして、それからあと  
のママの失脚。私は、心の支柱を失って精神までも風化  
させてゆくママを、心底からあわれにおもった。こんな  
気持ちになったことは、ママとの生活では、はじめてのこ  
と。私は、自分が傷つくことばかりを恐れ、ママに深く  
かかわることを避けてきた自分を責め続けたんだよ。下  
積みみの生活に明け暮れるどんなに貧しい夫婦でも、愛し  
あい、相手を束縛しあいながら、夫は妻の内面に、妻は  
夫の内面に、人間としてのゆたかさを蓄積させあって年

をとるではないか。だのに、私はママの内面に、私好み  
の一本の草花も樹木も植えてやろうとはしなかったの  
だ。不毛のままで年令をかきねたあわれなママを見た  
とき、私の着ぎめた内部で何かが変わった。私の心にママを  
おもう真紅の血が流れはじめたのだ。自分の心ない仕打  
ちのために無惨にくじけたこの女のためなら、共に地獄  
の苦しみを味わっても悔いはない——そう私はおもった。  
この無私の気持、それが愛情というものだったのだから  
か。しかし——そうおもったときはすでに遅かった。マ  
マは私の手がとどかぬ遠くへ行ってしまうていた——  
——そうだったのか。そうだったのか——

部屋には、すでに闇がまっていた。その闇の底で裕  
作の話が続く間中、佳はすすり泣いていた。そして、佳  
はあの夜のことをおもいだしていた。

蘭子の盗作作品が新聞に掲載されたあと、よそよそし  
い夫婦の関係を続けていた父が、かつて見せたことのない  
ほどに邪悪な酔いに乱れた夜のことを。それにむきあ  
う蘭子の冷たさを見て、佳はあの夜、蘭子に怨みを抱き、  
蘭子の盗作を密訴した。が、本当は、あの父と母の葛藤  
は、二人のために必要な闘いだったのではなかったか。  
あのように醜い姿を蘭子の前にさらしながら、父は着ぎ  
めた自分の内部に、妻への憎悪がたぎってくるのを期待  
していたのではなかったか。そして、憎悪と裏返しに存  
在する激しい愛のうずきを——。

男と女が、そのような形で枯れた心に火を放とうとし  
ていたのならば、佳は何を間違つて、母に復讐の刃をと  
いだのか。

沈黙がきた。黙り込んだ父と、いつまでも激しいすす  
り泣きを繰返す佳——。

闇の虚空から、激しい糺弾の音が響き渡る。

——人殺し！ 人殺しはお前たちだ！！——と。

どれほどの時間が経つたのだろうか。深夜に近く、漆  
黒の闇に閉ざされていた部屋の窓が奇妙なバラ色に染っ  
ているのを、裕作がまず気づいた。  
(つづく)